

各地域における青少年育成事業・青少年の活動の様子

真室川町



人と地域と自然が輝く 協働のまちづくり

中学生・高校生との懇談会

青少年指導委員兼育成推進員の自主的な活動として、11月20日(火)に真室川森の駐車場において、「中学生・高校生との懇談会」を開催しました。中高生が普段感じていることなど直接対話をする事で相互理解を図るとともに、今後の青少年健全育成活動に生かすことを目的として、平成18年度より開催しています。

当日は地元の真室川高校と真室川中学校の生徒会役員並びに高校生ボランティアサークル「ホップステップ」の会員のご協力のもと、総勢30名での懇談となりました。学校生活の様子や子どもと大人がそれぞれに期待することなどが話題となり、各々の「責任」について再確認するとともに相互に理解を深める大変有意義な時間となりました。

さらには、子どもと大人が一緒になってできる取り組みについて、ゴミ拾いなどの清掃活動やあいさつ運動といった多くの提案があり、実施するにあたっての留意点についても議論されるなど、近年になく活発な懇談となりました。

提案をいただいた企画の実現に向けて、青少年指導員兼育成推進員を中心とした取り組みを強化し、同時に子どもと大人がお互いに成長できるよう今後も活動を展開していきます。



鮭川村



「清流」と「きのこ」と 心のふる里 鮭川村

放課後は“わく²どき²”でJoyful!

自然体験や工作、調理実習・軽スポーツなどを通して、異学年児童同士や地域の方々との交流を深める目的でスタートした「鮭川わく²・どき²スクール」が5年目を迎えました。

5月16日の『ブラッキーづくり』を皮切りに、6月の軽スポーツ、7月の野外観察、10月の『紙ヒコーキづくり』等、毎回趣向を凝らした旬のメニューで子どもたち楽しんでもらっています。

各教室を終えるたびに、参加した児童からは「モノづくりは楽しかった。また、工作をする?」「今度は何をするの?」という声を聞くことができます。

スタッフからも、「本当に子どもの笑顔はいいものだ」

「子どもたちのひたむきな姿を目の当たりして本当に心が和む」などの声が寄せられています。

「子どもは地域の宝、次世代を担う逸材を地域で育てる」をモットーに、多種多様な体験や地域との触れ合いを通して、「人、地域」を大切に思う気持ちを伸ばしてもらえよう、今後も「楽しい・ためになる教室」を実施していきたいと思えます。



大蔵村



むら美しく・人いきいき キラリおくら

小学生自然体験事業「おくら葉山塾」

「おくら葉山塾」を実施してから、今年で15年目を迎えました。近年インターネットや携帯型ゲーム機の普及で、子どもたちは豊富な自然と歴史を持つ大蔵村に住みながら自然とふれあう機会が少なくなっています。この状況を改善するため、青少年育成推進員を中心とした『村の達人』たちの協力と特技を活かして、自然に対する価値観や感性、郷土への愛着心を養い、『生きる力』を育むことを目的としています。

この事業は、肘折温泉に注ぐ祓川下流の山間の広場を拠点に、2泊3日の日程で、大蔵小学校5・6年生を対象とした希望制で行っております。今年は、男10名、女5名の計15名の参加がありました。

日常生活では、なかなか体験できない自然でのプログラムを存分に満喫しました。自然の中で友だちと共に語り、遊び、時を過ごすことの楽しさを十分味わってくれたかと思えます。



子どもたちには、素晴らしい自然が豊富な大蔵村に誇りを持ち、健やかに育ててもらいたいと思います。

今後も青少年育成推進員を中心に青少年健全育成の事業を推進していきたいと思えます。

戸沢村



豊かな自然に四季のかおりと 舟唄のこだまする村

セーブメディア運動と家庭読書推進運動

本村では、これまで各学校でPTAを中心に「ノーテレビ・ノーゲームの日」の設定という形で取り組んできましたが、今年度より7月7日を「セーブメディアの日」とし、青少年育成村民会議、村PTA連絡協議会、教育委員会が連携して実施することになりました。

具体的には、各地区の公民館、協力者の民地、地区青少年育成委員の自宅など目立つ所に、2種類の「のぼり」を200本設置いたしました。

この取組によりアンケートを実施したところもあります。

その中には、読書の日以外でも本を読む機会が増えたという小学生の声や、会話が増えたためか、家の中が穏やかになった気がするし、子どもが早く寝るようになった等、成果が出ているようです。

今後も家庭で子ども達の「豊かな時間」が増えるように、運動を継続していきます。

